

日野市立教育センター一報

教育センターだより



第40号 平成28年12月15日発行

日野市立教育センター

○ 日野市立教育センター

191-0042

東京都日野市程久保 550 番地

代表電話 042-592-0505

Fax 042-592-1148

午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分

URL: www.hino-tky.ed.jp./center/

○ わかば教室

〒191-0042

東京都日野市程久保 550 番地

直通電話 042-592-0863

午前 8 時 45 分から午後 4 時



ひのっ子の成長を願って

日野市教育委員会 学校課
指導主事 阿部 梢

日野市教育委員会では、教育目標「ひらこう世界へ のびようともに つくろう夢を こえよう自分を」を掲げ、地域とともにつくる基本と先進の教育を進めてまいりました。この教育目標を継承しながら、平成26年3月、「第2次日野市学校教育基本構想」を策定いたしました。

「第2次日野市学校教育基本構想」の策定にあたっては、それまでの日野市学校教育基本構想を基に築いてきた成果を踏まえつつ、グローバル化や少子高齢化、高度な情報化をはじめ、急激に社会状況が変化する21世紀をたくましく生きていくために必要な力を育成していくことを目指してつくりあげてまいりました。

「第2次日野市学校教育基本構想」では、「21世紀を切りひらく力」、「次代をつくる特色ある学校づくり」、「つながりによる教育」の3つの基本方針に基づき様々な取り組みを推進しています。

基本方針1「21世紀を切りひらく力」では、子供たち一人一人が人間としての望ましい生き方、あり方を求め続ける中で、自分らしさを発揮し、地球規模で考え、実践・行動し、21世紀を切りひらく力を育成していくことを目標に掲げています。そこで、子供たちが新しい課題や答えを創り出し、よりよい自分と社会を切りひらく実践力や行動力につなげていくことを目指して、各学校で具現化していくために、昨年度から「学ぶ力向上推進委員会」を発足させ、「21世紀を切りひらく力」を育成するための授業創造に取り組んでいます。

基本方針2「次代をつくる特色ある学校づくり」では、ICT活用やユニバーサルデザインの実現環境づくり、授業づくりなど、質の高い教育環境を整え、個性と創造性のあるすぐれた教育力により、次代をつくる特色ある学校づくりに励むことを目指しています。日野市の特色ある取り組みとして通常の学級での特別支援教育のスタンダード「ひのスタンダード」の取り組みがあります。子供たちが集中して学習に取り組むことができる環境を整えるだけでなく、「特別支援を必要としている子供への適切な支援は、全ての子供たちにとって有効な支援となる」というユニバーサルデザインの考えに基づいて、全ての子供が参加でき、理解・習得・活用できる学力を育む取り組みを行っています。

基本方針3「つながりによる教育」では、「日野の地に根差した教育」「グローバルな視野をもった国際コミュニケーションスキルの育成」「自分のよさを発揮し、夢の実現に向けて自分をこえようとする自己表現」をキーワードに、「小学校外国語活動・中学校英語」の充実や国内留学体験に取り組んでいます。さらに、オリンピック・パラリンピック教育では、日野市の2本の柱である「①オリンピック等の本物に触れる体験を通じた、運動することの楽しさ・心地よさを味わう生涯スポーツの基盤づくり②郷土日野・自国の文化を知り発信すること、世界の国や文化を知る国際理解教育の推進」を基に、地域の伝統的な文化に触れる活動・地域と関わる活動・世界に目を向ける活動を推進しています。

そして、日野市には子供たちの成長を支える数多くの機関や団体があります。特に、日野市立教育センターでは、若手教員の育成や、郷土教育の推進、不登校の児童・生徒への支援等、数多くの取り組みを行ってくださっています。今後も、これらセンターの事業を通し、ひのっ子の成長に寄与されることを念願し、挨拶といたします。

I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育推進の研究」「郷土教育推進の研究」の推進、日野市教育委員会事業「ひのっ子教育21開発委員会研究」の支援を関係機関のご協力の下、進めています。以下、実施概要をお知らせします。

1 理科教育推進の研究 (理科教育推進研究委員会)

教科等教育係

足元に目を向けて

地学、特に地層や地形に関する学習は、地域の条件や膨大な時間の中での変化、広い範囲の展望が求められます。そのため観察や実験を通して学習を進めるのが難しい学習です。教育センターでは平成25年11月に郷土資料館の支援を受け、フリービデオカメラマン・井上録郎氏、埼玉県立高等学校教諭・倉川博先生とともにDVD「日野の大地は語る」を作成し、市内の幼・小・中学校に配布をしました。

(1) 地層の「わながけ」(含まれている鉱物の洗い出し)・・・貸出をします。

・関東ローム・赤土(火山噴出物) 2地点:長沼公園頂上付近で採集

中央線を挟んでしんめい児童館反対側の露頭、坂西横穴墓群・横穴橋付近で採集

・海鳴りの丘(海又は汽浅水、小山田層) 2地点:海鳴りの丘で採集

砂の層、剥ぎ取り標本最下部のシルト層

・宝永山の火山灰:セツ塚古墳群(発掘現場)で採集

富士山の宝永火山が噴火(宝永4年・1707年)した際の火山灰

・Kd25(堀之内第二火山灰):南平公園入口と多摩川で採集

165万年前北アルプスが噴火した際の火山灰で海底に積もる。

・新燃え岳の火山灰:平成23年(2011年)噴火、宮崎県たかはる町・皇子原公園で採集

・大谷石(火山噴出物):緑色凝灰岩(グリーントフ)の一種、新第三紀中新世(約2300~500万年前)の海底火山の噴出物

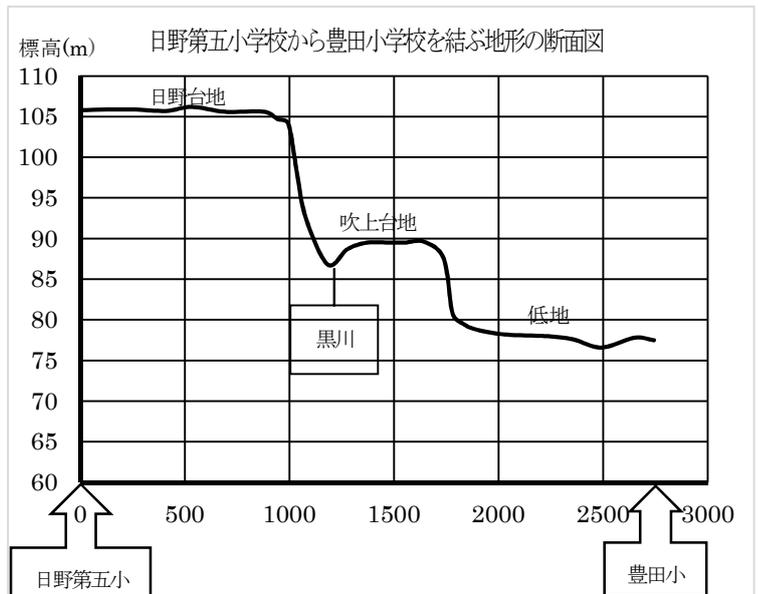
栃木県宇都宮市大谷町で産出、塀や蔵などの材料に利用

・鹿沼土(火山噴出物):4.5万年前、群馬県の赤城山の噴火による。日光でも見られる栃木県鹿沼市産出、園芸用の用土等に利用

・赤玉土:関東ローム(赤土)を乾燥させ、粒状になったもの。園芸用土であるが、関東ロームが手に入らない場合に利用できる。

(2) 日野地形図

日野の地形を細かい部分まで含めて表示した地図は、日野市教育委員会生涯学習課文化財係が発行している「日野市文化財さんさくマップ」に掲載されています。しかし、地図上に説明等があるため地形がはっきり分からない部分もあります。そこで、「日野市文化財さんさくマップ」をもとに国土地理院の地図に、日野市内を丘陵地、台地(日野台地、吹上台地)、低地に分けて色塗りをしました。



国土地理院のWebページを利用して各地点の標高を求め、つなぎ合わせることで河岸段丘等の地形をグラフ化することができます。さらに、ストリートビューの画像と地形のグラフを組み合わせると、高低差をより鮮明に見ることができます。(グーグルのストリートビューは、2015年5月に豊田駅付近を撮影しました。)

2 郷土教育推進研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

「授業実践を中心とした研究推進」

今年度の郷土教育推進研究委員会では、授業実践に重点を置き、全委員で授業を見合いそのあり方を考えました。特に、サブテーマを「日野に尽くした人」とし、4年生の授業では、日野の図書館の名を全国的に高めた有山 崧氏を、幼稚園（年長）の授業では、平山陸稲をつくった林 丈太郎氏を題材としました。

1. 10月13日（木）「日野の図書館の発てんにつくした有山 崧」日野第六小学校、島谷直樹 教諭

掲示板で全校連絡した結果、郷土教育推進研究委員以外に5名の方が参加しました。また、日野の図書館制度を整備した有山 崧氏のことを扱ったため図書館の方がとても興味を示されました。このため学校でどのような指導をしているか、授業の様子を理解したいとVTRで授業の様子を記録し、図書館職員の学習の参考にするとのことでした。また、教材の開発に当たり、有山 崧氏の次男である至氏に取材したり、初代図書館長の 前川恒雄氏の本を参考にしたり、これまでにない授業を創造できました。教師の思いの伝わる授業となりました。

バスを使った図書館・ひまわり号



2. 11月1日（火）日野第七幼稚園、年長 森 陽子教諭

日野市郷土資料館と連携して園児に合った活動を考えることができました。このため、園児はそれぞれの活動に集中して取り組み、米作りに興味をもつことができました。そして、もみすりをして米が出てきたことを「米が生まれた」と表現するまでになりました。割りばしを使った脱穀やゴルフボールによるもみすりは、園児の実態を考えて計画されたものであり、こうした活動に集中させることで、「平山おかぼ」への興味関心はより高まったものと考えられます。

割りばしを使った脱穀



ゴルフボールとすり鉢を使ったもみすり



○ 外国語活動・英語

(1) 主旨

今年度のひのっ子教育21開発委員会（外国語活動・英語）では、昨年度の研究内容を、日野市全体に発展させるべく、「外国語活動・外国語（英語）科における魅力ある授業づくりプロジェクト」として、研究に取り組んできました。

(2) 研究の内容

次期学習指導要領改訂を見据え、小中高連携を図り、ひのっ子の学習意欲の向上と、基礎的・基本的な知識及び技能の定着、思考力、判断力、表現力等を育成する魅力ある授業づくりを目指し、ALTを活用したよりよい授業モデルの提案を目指してきました。

また、東京都教育委員会は、小学校英語教科化を踏まえ、都内全公立小学校における英語教育の充実に資することを趣旨に、「平成28・29年度英語教育推進地域事業」を策定し、都内10地域を英語教育推進地域として指定しました。日野市は英語教育推進地域として、「ALTの拡大配置及び効果的な活用に関する研究」の指定を受けています。以下、現時点までの実践報告です。

研究テーマ

「外国語活動・外国語（英語）科における『ALTを活用した魅力ある授業づくりプロジェクト』の研究」

*サブテーマ

『小学校外国語活動と中学校外国語・高等学校外国語の円滑な接続』

第1回 4月26日（火） 日野第一中学校

- ・今後の研究方針について
- ・組織（分科会）構成について

第2回 5月24日（火） 日野第一小学校

- ・昨年度ひのっ子教育21開発委員によるALTとの提案授業

*年間講師

『東京家政大学 人文学部英語コミュニケーション学科 太田 洋 教授』

第3回 6月21日（火） 教育センター

- ・分科会による授業検討

第4回/第5回 7月及び9月 各分科会における授業者の所属校

- ・分科会によるグループ授業（第1回・第2回）

第6回 10月25日（火） 潤徳小学校

- ・英語教育推進リーダーによるALTとの連携授業

授業者 潤徳小学校 金井 貴宏 主幹教諭

- ・分科会によるグループ中間発表

*講演「小中高と連携した英語教育におけるALTの活用について」

『東京家政大学 人文学部英語コミュニケーション学科 太田 洋 教授』

第7回/第8回 11月及び12月 各分科会における授業者の所属校

- ・分科会によるグループ授業（第3回・第4回）

今後の予定として、2月13日（月）に2年間の研究の成果を発表し、研究で得られた成果を各学校に配布します。



○ 道徳 「特別の教科 道徳」を踏まえた「日野の道徳」創造プロジェクト

研究主題

児童生徒がよりよく生きる心を養う日野市の道徳教育の創造 ～「特別の教科 道徳」の視点に立った道徳教育の構築と指導方法の工夫～

21世紀を切り開くひのっ子的ための道徳教育の在り方を、平成28・29年度の2年間をかけて研究しています。平成27年3月に、小学校及び中学校の学習指導要領が改正され、小学校は平成30年度から、中学校は平成31年度から「特別の教科 道徳（道徳科）」がスタートすることになりました。現在、道徳の授業の変革が求められています。この2年間の研究を通じて得られる情報を、市内の小・中学校に提供してまいります。

1 授業研究

- (1) 平成28年6月17日（金） 授業者；日高 玲子 主幹教諭
滝合小学校6年 教材名；「人間をつくる道～剣道～」
主題；郷土や国を愛する心を



滝合小学校

- (2) 平成28年7月15日（金） 授業者；遠藤 顕宏 教諭 大坂上中学校3年
教材名；「ドナーカード」 主題；生命の大切さ

- (3) 平成28年10月21日（金） 授業者；安田 尚民 主幹教諭 夢が丘小学校2年
教材名；「手のひらを太陽に～やなせたかし～」 主題；生きることのすばらしさ

- (4) 平成28年11月8日（火） 授業者；矢崎 葉子 教諭 三沢中学校1年
教材名；「しょうゆのふるさとを訪ねて」 主題；伝統・文化の尊重



三沢中学校

◎ 授業研究を通じてつかめたこと

- ・主題に関して子供たちが真剣に考えることができる発問を工夫すること。
- ・多様な考え方と出会い、さらに考えが深まるような話し合い活動を行うこと

⇒「考え、議論する」授業の実現を目指す

2 今後の予定

- (1) 今年度のまとめを行い、中間報告書（リーフレット形式）を作成する。
(2) 平成29年2月7日（火）に中間報告会を開催する。 会場；教育センター

「特別の教科 道徳」とは

教科化の背景

- ・いじめなどの心の危機。
- ・道徳教育の忌避傾向、軽視傾向。
- ・これからの社会の中でよりよく生きるための基盤となる道徳性を養う必要。

特別の教科

- ・人格全体に関わる道徳性を育成する。
- ・担任が授業を行う。（教科担任ではない）
- ・評価を行うが数値評価はしない。

検定教科書の配布

II 研修部

教員の研修

教職員研修係

教育センター研修部では、日野市教育委員会学校課が計画した日野市立幼稚園、小・中学校教職員の研修事業を進める際の様々な支援業務を行っています。その主なものを紹介します。

(1) 若手教員育成研修(1・2・3年次)

若手教員育成研修(1・2・3年次)の授業観察及び指導を行っています。1年次教員は、学習指導案が適切に作成されているか、授業が計画通り実施されているか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているか等の観点で授業を観察しています。担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら指導にあたっています。

1年次教員の2学期の授業観察では、1学期の課題を踏まえ、授業展開にも工夫がみられるようになってきました。

2年次教員については、指導のねらいを明確にし、授業の流れを工夫した学習指導案を作成した上で授業に臨むように、授業後には授業評価を行い、改善策を考えていけるように具体的に指導しています。3年次教員には、課題解決的、より実践的な授業を行うようにアドバイスをしています。また、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導助言にあたっています。



(2) 夏季全体研修会

7月22日、日野煉瓦ホールで、日野市教育委員会夏季教員研修の全体研修会が開かれました。第1部は「学びと育ちの日野ビジョン(日野市教育大綱)」への思いを大坪 冬彦日野市長よりお話をいただき、第2部では「自分も他人も大切にすることをはぐくむ～保護者と共に～」と題し、神田外語大学 嶋崎 政男教授よりご講演をいただきました。

教育センターでは、担当所員が全体研修会の開催に向け、教育委員会と協力して、立看板の準備、受付名簿の作成、資料の準備、及び当日の受付を行う等の支援を行いました。

(3) 若手教員育成研修(2年次・3年次)

8月25日、日野第一中学校を会場にして、若手教員育成研修(2・3年次)「授業リフレクション」が開催されました。2年次教員は午前、3年次教員は午後のそれぞれ半日単位の研修が実施されました。2年次・3年次教員ともに8班に分かれ、一人ずつ1学期に実践した事例(授業)を発表し、授業展開の方法や教材教具の工夫等についてグループ協議を行いました。

担当所員は、午前、午後の班毎のグループ協議に参加し、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導助言を行いました。それぞれ課題をもって2学期に臨むように励ましました。



(4) 教育課題研修会

夏季休業中に実施された、郷土教育、人権教育、外国語活動、夏季休業中公開研修会、専門研修、食育研修、特別支援教育、理科実技、動物の見方、昆虫のスキルアップ、英語教育推進リーダー還元各研修会の支援業務を教育センター研修部が行いました。各学校からの受講申し込みの取りまとめ、参加人数の確認から受付名簿の作成、さらに受付業務も行いました。

Ⅲ 相談部

学校生活相談係【適応指導教室(わかば教室)】

教育センターの相談部は、学校生活相談係が「適応指導教室(わかば教室)」の運営と「学校生活相談(主に長期欠席・不登校の児童・生徒について)」を行っています。

1 学校生活相談

－ 不登校児童・生徒と適応指導教室「わかば教室」－

学校生活相談係は様々(心理的・情緒的等)な要因によって、不登校や登校しぶりの状況にある児童・生徒を適応指導教室「わかば教室」(以下「わかば教室」という)で受け入れ、生活や学習の支援及び指導を行っています。

児童・生徒は学校で、健康で明るく活動的に、また、落ち着いた雰囲気の中で過ごし、一人一人が安全で安心して意欲的に学習や行事などに取り組めることが大切です。

学校生活相談係の役割は児童・生徒が「わかば教室」での生活を通して、安心して日常の生活がおくれるように支援し、学校に復帰できるようにすることだと考えています。

「わかば教室」では、通室者の心のケア(精神的安定)、学力(学習力)向上、体力増進、社会性の育成等を図るため、一人一人に対応した支援を心掛けています。また、相談活動(定期的・随時)を充実させ、SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)や行事[下記(2)]を行なう等、人間関係を深め、社会的な実践力を培い、児童・生徒の活力向上(心と身体のエネルギーを高める)を図り、学校復帰を目指した活動に取り組んでいます。

しかし、児童・生徒が抱えている様々な課題に対応していくためには、学校・保護者・関係機関と連携していくことが欠かせません。

(1) 学校との連携

「わかば教室」では、市内各小・中学校と連携し、児童・生徒の生活改善と学校復帰に取り組んでいます。そのために各学期に「適応指導教室連絡会」を設け、通室している児童・生徒が在籍する学校の管理職や担任及びコーディネーターの先生との面談・情報交換を実施しています。その情報を「わかば教室」で共有し、指導方法を検討・改善したりしています。また年間1～2回、市内の全小・中学校を登校支援コーディネーター・エール担当者と訪問しています。

(2) 「わかば教室」の行事について

「わかば教室」では、児童・生徒の社会性や集団適応能力の育成のために、学期ごとに様々な行事を行なっています。遠足、お茶会、図書館訪問、老人ホーム訪問、社会科見学、学習発表会(音楽会)、更には誕生日会、収穫祭(調理実習)、スポーツ大会など、児童・生徒の自主、自立、社会性を育むことを意識しながら計画・実施しています。

動物公園
春の遠足
(多摩)



お茶会(にじり口
から茶室に入り
ます)



(3) 適応指導教室「わかば教室」通室の状況(体験通室者含む)

平成27年度	5月1日	小学生	8人	中学生	15人	合計	23人
	10月1日	小学生	13人	中学生	27人	合計	40人
	3月25日	小学生	19人	中学生	38人	合計	57人
平成28年度	5月1日	小学生	7人	中学生	19人	合計	26人
	11月1日	小学生	11人	中学生	33人	合計	44人

日野市も不登校児童・生徒が毎年出現しています。その中で「わかば教室」に通室し、心と身体のエネルギーを高め学校に復帰する児童・生徒がいます。また、高校へ進学した生徒も元気に通学しています。

学期・学年の変わり目は学校に復帰できる良い機会です。機会を逃さないように、児童・生徒の小さな変容を大切に、生きる力を育み、学校復帰に繋げることができるよう、保護者や学校及び関係諸機関と連携を図っていきたくと思います。

2 「e-ラーニング」を活用した学習支援

登校支援員

不登校対策の観点から、不登校児童・生徒に日野市 e-ラーニング「ひのっ子学習システム」を活用し、個に応じた学習支援を ICT 活用教育推進室と協力して実施しています。

e-ラーニングを活用した学習支援は、日野市適応指導教室「わかば教室」に通室している児童・生徒とわかば教室に通室できない児童・生徒が対象です。

11月末現在、23名の児童・生徒が e-ラーニング「ひのっ子学習システム」を活用しました。

わかば教室に通室している児童・生徒は、年間を通し週2日(固定学習日:月曜日・水曜日)e-ラーニングを活用して学習をしています。わかば教室では、e-ラーニング担当者が一人一人の能力に応じた個別学習課題取り組みへの支援をしています。つまずきのある学習やあまり学習してこなかった内容を基礎から学んだり、各学年の教科の内容は進度に応じて選んで学習したりできるので学力への不安が軽減されています。さらに、学習したいという意欲の芽生えは、学校復帰へのきっかけや進学への希望の一因となっています。

※わかば教室見学者は、固定学習日(月曜日・水曜日)に e-ラーニングで体験学習が可能です。※長期間の欠席状況にある、またはそのような傾向にあり、わかば教室にも通室できない児童・生徒は、居場所(わかば教室 e-ラーニング学習室)で水曜日(わかば教室下校時刻後午後2時～4時)に学習できます。学校を通して事前にわかば教室登校支援員に確認してください。

3 不登校改善へ向けての取組み

(1) 適応状況調査実施の目的について

不登校問題の改善をめざす「日野サンライズプロジェクト」の提言を受けて、市内各小中学校では適応状況調査を実施しています。適応状況調査は、校内委員会での不登校の状況や学校の取組み等の検討を踏まえて各学校で作成し、教育委員会及び教育センター登校支援コーディネーターに報告されます。適応状況調査実施の目的は下記のようにまとめることができます。

- ① 不登校に関する校内情報の共有
- ② 不登校の改善に向けた組織的な取組み
- ③ 取組み結果の評価と次の手立ての検討
- ④ 検討された次の手立てによる取組み

(2) 適応状況調査の活用について

登校支援コーディネーターは、適応状況調査の集計・分析を基に、毎月開催される定例生活指導主任研修会をはじめ、日野市適応指導教室(わかば教室)、関係機関との連携の機会を通じて、不登校改善に向けての情報提供に努めています。また、日野市発達・教育支援センター(エール)の教育相談担当カウンセラーやS SWへの情報提供を通して、関係機関同士の連携・協力の一助となるよう図ってきました。さらに、適応状況調査の分析結果を新規採用教員の初任者研修会用資料としても活用しています。

(3) 適応状況調査から見えてくる課題

本年4月より9月までの適応状況調査から次のような課題が見えてきました。

- ① 不登校の増加傾向(特に中学生)と不登校の長期化。
- ② 生活リズムの乱れ、特に昼夜逆転傾向の増加。
- ③ 家庭環境の問題、学校へ登校させる意志力の低下。
- ④ 目視による確認ができていない児童・生徒の問題。

(4) 不登校の未然防止に向けての取組み

ここ数年間全国的に、不登校児童・生徒は減少傾向を示していましたが、平成26年度頃より再び増加傾向に転じ、日野市も同じような傾向を示しています。

市内各小中学校の適応状況調査にみる不登校の理由をあげると、夜なかなか寝付けられない、朝起ききれないなど、生活リズムの乱れによる体調不良を多く目にします。

生活リズムの乱れを来す一つの理由として、深夜あるいは明け方に至るまでの過度のゲームやスマホ等の情報機器使用があります。その中には、ほとんどゲーム依存に入り込んで、「昼夜逆転」の状況になっているケースも多くあります。

不登校の未然防止を図るための一つとして、ゲームやスマホ等の使用を適切に管理して生活リズムを回復させることが必要です。そのためには、回復を図る本人自身の強い意志と努力はもちろんですが、家庭や学校、専門機関の連携によって、本人の意思の持続と努力を支える環境をつくる必要があります。

登校支援コーディネーターとして、学校訪問やケース会議、関係機関との情報交換等の機会を活かして、本年度も学校を中心とした関係機関の連携による改善のための環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。

平成28年度日野市立教育センター活動報告・調査研究事業の発表会について

当教育センターでは、日野市の教育課題に対応する研究や研修、教員の指導力向上のための研修、若手教員の授業観察・指導・助言、適応指導教室等を行っております。

この度、今年度の教育センター事業の成果として、理科教育や郷土教育の調査研究事業の発表、教育センターで行っている教員研修やわかば教室（適応指導教室）、登校支援状況等についての報告を下記日程で行います。

記

1日 時 平成29年2月21日（火）午後2時15分から午後4時45分まで

2会 場 教育センター講堂（3階）

3活動報告・発表内容

- 1) 教員研修……………平成28年度教員研修について（報告）
- 2) わかば教室……………平成28年度わかば教室について（報告）
- 3) 登校支援……………平成28年度適応指導状況について（報告）
（休 憩）
- 4) 理科教育推進研究……………「ひのっ子」が、主体的に活動する理科学習が展開されるための教員の理科の指導力向上、理科授業の改善に向けた研究及び実践研修等について（発表）
- 5) 郷土教育推進研究……………ふるさと日野に誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成するための郷土教材の開発と指導方法の研究及び幼稚園・小学校での実践事例等について（発表）

4 その他

※ 駐車場には限りがございますので、公共交通機関をご利用ください。